

熊谷市石原古墳群調査会埋蔵文化財調査報告書

石原古墳群第 2 号墳

2 0 0 8

埼玉県熊谷市石原古墳群調査会

熊谷市石原古墳群調査会埋蔵文化財調査報告書

いし はら こ ふん ぐん だい ごう ふん

石原古墳群第2号墳

2 0 0 8

埼玉県熊谷市石原古墳群調査会

序

私たちの郷土熊谷には、原始・古代の集落跡や中世の館跡等の埋蔵文化財が数多く分布しております。

こうした埋蔵文化財は、郷土の発展やその過程を物語る証であるとともに、私たち子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。私たちは、こうした文化遺産を継承し、次世代へと伝え、豊かな熊谷市形成の礎としていかなければならないと考えております。

さて、石原古墳群は熊谷市石原に所在する古墳群で、かつて四八塚と称され、市内でも密集した古墳群を形成している地域です。

このたび株式会社埼玉住宅情報センターによりまして、建売住宅建設の計画がもちあがりました。

貴重な埋蔵文化財であることから、遺跡の保護と保存について、協議を重ねてまいりましたが、事業計画の変更が難しかったことから、急遽、石原古墳群調査会を設立し、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなりました。

本書は、平成18年1月から3月に実施された発掘調査の成果をまとめたものでございます。今回の調査によって、石室内から鉄鏃・鉄刀などが出土し、墳丘から埴輪が確認されました。

本書を、埋蔵文化財の保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書刊行に至るまで、文化財保護法の趣旨を御理解、御協力を賜りました株式会社埼玉住宅情報センター並びに地元関係者には厚くお礼申し上げます。

平成20年3月

熊谷市石原古墳群調査会
会 長 野 原 晃

例 言

- 1 本書は、埼玉県熊谷市石原字屋敷1,312番地他に所在する石原古墳群第2号墳（埼玉県遺跡番号59-025-2）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査届出に対する埼玉県教育委員会からの指示通知は平成19年2月5日付け教生文第2-81号である。
- 3 発掘調査は、建売住宅建設に伴う事前調査であり、熊谷市石原古墳群調査会が実施した。
- 4 発掘調査及び整理、報告書作成期間は、下記のとおりである。

発掘調査期間	平成19年1月22日～3月29日
整理、報告書作成期間	平成19年4月16日～平成20年3月31日
- 5 発掘調査の担当は今井 宏・金子正之、本書の執筆・編集は、金子正之が行った。
- 6 発掘調査の組織は、I章のとおりである。
- 7 発掘調査における写真撮影及び、遺物の写真撮影は金子が行った。
- 8 本書にかかる資料は、熊谷市教育委員会が保管する。

凡 例

- 1 遺跡分布図・遺跡位置図・地形測量図・全測図・断面図・石室実測図・石室遺物出土状況図の縮尺は、次のとおりである。
遺跡分布図 1/50,000、遺跡位置図 1/5,000、地形測量図 1/200、全測図 1/120、断面図 1/80、石室実測図・石室遺物出土状況図 1/40
- 2 石室遺物出土状況図の遺物番号は、挿図番号を示す。例えば、1－2 は第 1 図の 2 の遺物を示す。
- 3 土層断面図、石室実測図のポイントの標高は、そのつど、ポイント脇に示す。
- 4 遺物実測図の縮尺は、金属製品は 1/2、埴輪は 1/3 である。
- 5 遺物拓影図のうち、向かって左は外面、右は内面を示す。
- 6 写真図版の遺物縮尺は、すべて任意である。
- 7 遺物観察及び遺構の土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修1997年版）を参考とした。

目 次

序

例 言

凡 例

目 次

I	発掘調査の概要	1
1	調査に至る経過.....	1
2	発掘調査・報告書作成の経過.....	1
3	発掘調査、整理・報告書刊行の組織.....	2
II	遺跡の立地と環境	3
III	遺跡の概要	6
1	調査の方法.....	6
2	検出された遺構と遺物.....	6
IV	遺構と遺物	8
1	墳丘と周溝.....	8
2	主体部.....	8
3	出土遺物.....	14
V	調査のまとめ	20

挿図目次

第1図	埼玉県の地形図	2
第2図	周辺遺跡分布図	4
第3図	石原古墳群第2号墳位置図	5
第4図	石原古墳群第2号墳地形測量図	7
第5図	石原古墳群第2号墳全測図	9
第6図	土層断面図(1)	11
第7図	土層断面図(2)	12
第8図	石室実測図	13
第9図	石室遺物出土状況図	14
第10図	石室出土遺物(1)	15
第11図	石室出土遺物(2)	16
第12図	墳丘出土埴輪	18

図版目次

図版1—1	調査前全景（南から）	図版7—1	墳丘上の河原石
1—2	調査前全景（北から）	2	石室遺物出土状況（第10図1）
図版2—1	航空写真	図版8—1	石室遺物出土状況（第10図2）
2—2	石室	2	石室遺物出土状況（第10図7）
図版3—1	石室（閉塞石）	図版9—1	石室遺物出土状況（第10図9）
3—2	石室	2	石室遺物出土状況（第10図10）
図版4—1	石室（羨道部）	図版10—1	石室遺物出土状況（第11図7）
4—2	石室（玄室）	2	石室出土遺物（第10図1～6）
図版5—1	石室	図版11—1	石室出土遺物（第10図7～13）
5—2	葺石	2	石室出土遺物（第11図）
図版6—1	周溝	図版12—1	墳丘出土埴輪（第12図1～8）
6—2	周溝	2	墳丘出土埴輪（第12図9～15）

表目次

第1表	石室出土遺物観察表	17	第2表	埴輪観察表	19
-----	-----------	----	-----	-------	----

I 発掘調査の概要

1 発掘調査に至る経過

平成18年10月16日、株式会社埼玉住宅情報センターから熊谷市教育委員会に今回の開発予定地内における埋蔵文化財の取扱いについて照会があり、熊谷市教育委員会は周知の遺跡であるので発掘届出の提出と埋蔵文化財確認のための試掘調査を要する旨の回答を行った。

平成18年11月1日、株式会社埼玉住宅情報センターから文化財保護法第93条第1項に基づく発掘届出が埼玉県教育委員会教育長に提出され、熊谷市教育委員会は、平成18年11月15・16日に試掘調査を実施した。その結果、古墳1基が確認され、その旨を株式会社埼玉住宅情報センターへ回答するとともに、保存に関する協議を重ねたが、計画変更が不可能であると判断されたため、やむをえず記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

協議の中で、株式会社埼玉住宅情報センターから、できるだけ早く調査に入り、早期に調査を完了できるようにとの要請があり、熊谷市教育委員会は熊谷市石原古墳群調査会を設立し、発掘調査を実施することとなった。株式会社埼玉住宅情報センターと熊谷市石原古墳群調査会は平成19年1月10日に埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約書を締結した。また、熊谷市石原古墳群調査会は文化財保護法第92条第1項に基づく発掘届出を埼玉県教育委員会教育長へ提出し、平成19年1月22日から発掘調査が開始された。なお、埼玉県教育委員会から株式会社埼玉住宅情報センターあてに平成19年2月5日付け教生文第2-81号で発掘調査の実施についての指示通知があった。

2 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

発掘調査は、平成19年1月22日から3月29日にかけて行われた。調査面積は、建売住宅建設工事部分296㎡であった。まず、北側の周溝を確認するため人力によりトレンチ調査（3・4トレンチ）を行い、周溝の位置を確認し、重機により表土剥ぎを行い、周溝を人力で掘下げた。その後、墳丘も人力で掘下げ、東西方向（1トレンチ）と南北方向（2トレンチ）にトレンチを入れ、断面の観察をすると、墳丘の北西側と東側は大きな攪乱を受けていることが確認できた。そのため、石室は残存状況が悪く、石組みが確認できたのは一部であった。遺物は少なく、墳丘から少量の埴輪の破片が確認され、石室からは鉄刀・鉄鏃など金属製品が検出された。墳丘・出土遺物・石室・周溝の写真撮影、実測を行い、調査区全体の航空写真撮影を行って、調査は平成19年3月29日に終了した。

(2) 整理・報告書作成作業

整理作業は、平成19年4月16日から始めた。遺物の洗浄・注記・実測・拓本取りを行い、遺構の図面整理作業を行った。遺構・遺物の図面のトレースをして、図版を作成した。その後、原稿執筆、割付等の作業、報告書の印刷、校正を行った後、3月末日に本報告書を刊行した。

3 発掘調査、整理・報告書刊行の組織

調査主体者 熊谷市石原古墳群調査会

会 長 野原 晃 (熊谷市教育委員会教育長)

理 事 新井 晴次 (熊谷市文化財保護審議会会長)

菅谷 浩之 (〃、平成20年2月21日から)

増田 和巳 (熊谷市教育委員会教育次長)

監 事 菅谷 浩之 (熊谷市文化財保護審議会委員)

柴崎 久 (熊谷市教育委員会教育総務課長、平成18年度)

小林 常男 (〃、平成19年度)

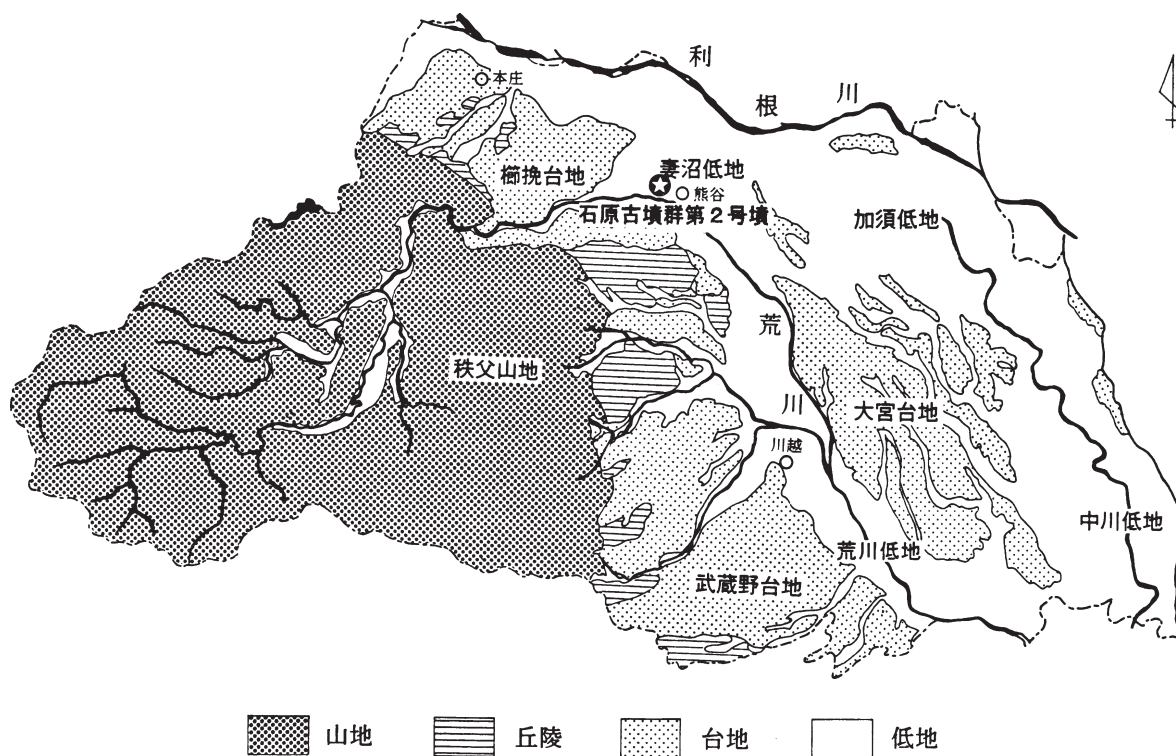
事務局 長 長島 泰久 (熊谷市教育委員会社会教育課長、平成18年度)

関口 和佳 (〃、平成19年度)

事務局次長 今井 宏 (熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護担当副参事)

事務局員 金子 正之 (熊谷市教育委員会社会教育課主幹兼文化財保護係長)

寺社下 博 (熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主査)



第1図 埼玉県の地形図

II 遺跡の立地と環境

熊谷市は埼玉県北部に位置する県北一の商都である。平成17年10月1日には妻沼町と大里町と、平成19年2月13日には江南町とそれぞれ合併し、新「熊谷市」として発足したところである。

熊谷市は、北側で群馬県との境を利根川が、南側では旧熊谷市と旧大里町・旧江南町との境を荒川がそれぞれ西から南東方向に向って流れており、両河川が最も近接する地域である。地形的には、市の西側に櫛引台地、荒川を挟んで南側には江南台地、北側及び東側には妻沼低地が広がっているが、市の大半は妻沼低地上にある。

石原古墳群第2号墳は、埼玉県熊谷市石原字屋敷1,312他に所在しており、JR 高崎線熊谷駅の北西約3km、荒川から北へ約1kmの所に位置している。本古墳の所在する石原地区は、熊谷市の中央部にあたり、かつて四十八塚と呼ばれ、市内でも古墳が密集している地域である。

本古墳は、熊谷扇状地に形成された自然堤防上に立地し、標高34～35mを測り、古墳の北側は1～2m程低く水田となっており、旧河道と考えられる。

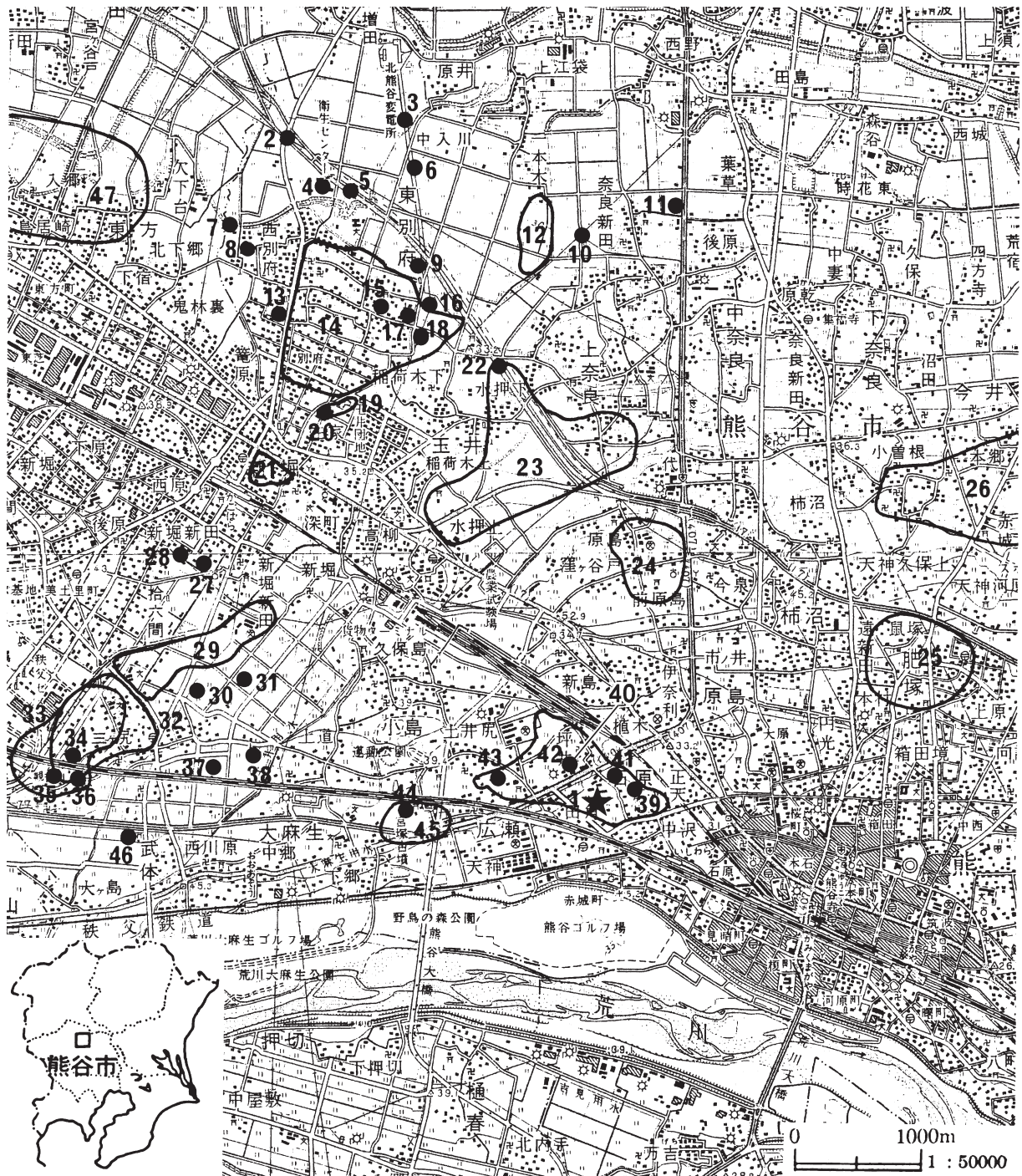
石原古墳群は、現在15基の古墳が確認されている。本古墳の北西側にある薬師堂古墳は、昭和47年に調査され、控積の横穴式石室から銅釧・耳環・直刀・刀子・鉄鏃・埴輪等が出土している。本古墳の北東部にある第6号墳（旧名称：天神前遺跡1号古墳）は、平成2年度の調査により石室と周溝の一部が確認され、埴輪片・土師器片が発見されている。東側にある第7号墳からは、平成9年度の調査により、周溝の一部と埴輪片が検出され、石原古墳群第8号墳からは、周溝の一部と埴輪片が出土している。

石原古墳群の西南には広瀬古墳群があり、上円下方墳という珍しい形で国指定史跡の宮塚古墳の他、8基の円墳と2基の方墳が確認されている。

熊谷市内には、石原地区以外にも多くの古墳群が見られるが、今回は旧熊谷市域の古墳群について概観する。旧熊谷市域の北側には別府古墳群・玉井古墳群・原島古墳群・肥塚古墳群・中条古墳群がある。西部には三ヶ尻古墳群があり、南部には村岡古墳群・瀬戸山古墳群がある。

別府古墳群は、17基の円墳と1基の前方後円墳があり、昭和41年に仲廓古墳の調査が行われ、円筒埴輪列の一部が検出されている。ヤス塚古墳からは農夫の埴輪が出土している。玉井古墳群は、昭和55年に新ヶ谷戸遺跡が調査され、1号墳は胴張りの横穴式石室をもち、土師器・須恵器・直刀・鉄鏃等が出土している。原島古墳群は、3基の円墳が確認されている。肥塚古墳群は、16基の円墳があり、平成4年に1号墳から3号墳の3基の円墳が調査され、それぞれ胴張りの横穴式石室をもち、円筒埴輪・形象埴輪・土師器・須恵器・直刀・耳環・鏢・滑石製模造品等が出土している。

中条古墳群は、32基の円墳と2基の帆立貝式前方後円墳・方墳2基などが確認されている。昭和54年に、帆立貝式前方後円墳の鍬塚古墳が調査され、円筒埴輪列が確認され、2カ所の墓前祭祀の跡も確認されている。祭祀跡から須恵器の高坏型器台・高坏や土師器の高坏・坏等が出土している。昭和56年には女塚1号～4号墳が調査され、1号墳は帆立貝式の前方後円墳で円筒埴輪列が確認され、盾を持つ武人埴輪等の形象埴輪も出土している。2号墳からは動物の形象埴輪（馬・猪・鹿）が出土している。昭和57年と59年に大塚古墳が調査され、胴張りの横穴式石室で複室構造であることが確認され、金装銅製



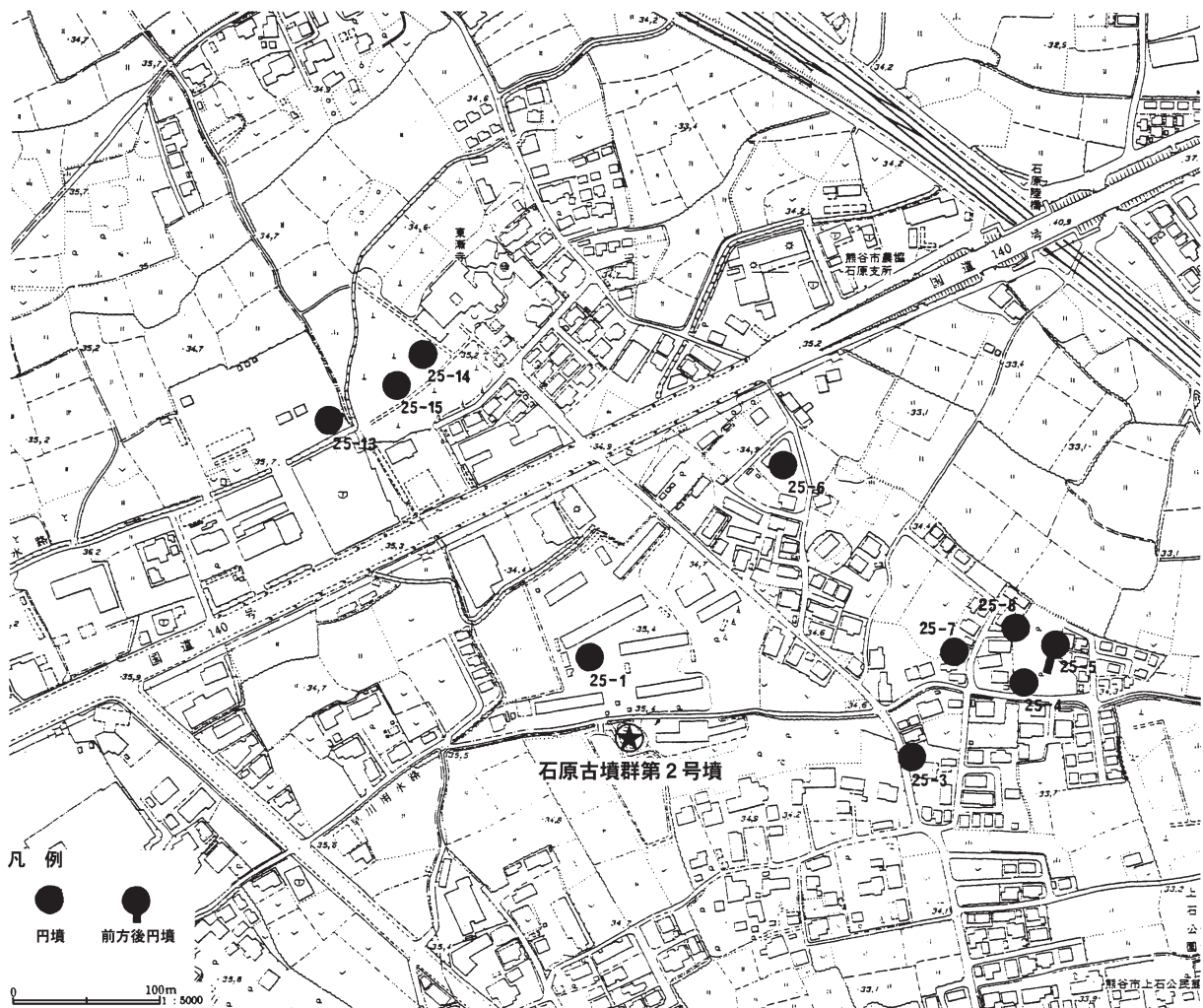
- 1 石原古墳群第2号墳 2 根絡遺跡 3 入川遺跡 4 横間栗遺跡 5 関下遺跡 6 深町遺跡 7 西別府祭祀遺跡
 8 西別府廃寺 9 八反田遺跡 10 中耕地遺跡 11 横塚山古墳 12 一本木前遺跡 13 原遺跡 14 別府古墳群
 15 東別府館跡 16 寺東遺跡 17 中廊古墳 18 ヤス塚古墳 19 在家古墳群 20 在家遺跡 21 籠原裏古墳群
 22 新ヶ谷戸遺跡 23 玉井古墳群 24 原島古墳群 25 肥塚古墳群 26 中条古墳群 27 堂西遺跡 28 拾六間後遺跡
 29 樋の上遺跡 30 若松遺跡 31 黒沢館遺跡 32 三ヶ尻遺跡 33 三ヶ尻古墳群 34 三ヶ尻林遺跡 4号墳
 35 二子山古墳 36 三ヶ尻No80古墳 37 松原遺跡 38 庚申塚遺跡 39 石原古墳群第8号墳 40 薬師堂古墳
 41 天神前遺跡 42 石原古墳群 43 高根遺跡 44 宮塚古墳 45 広瀬古墳群 46 社裏遺跡 47 木のの本古墳群

第2図 周辺遺跡分布図

鞘尻金具・鉄鏃・勾玉・金箔塗漆木棺片等が出土している。平成11、12年には北島遺跡第19地点が調査され、古墳が8基発見され、第2号墳からは内行花文鏡が出土している。平成12・14年には田谷遺跡が調査され、古墳が7基発見されている。

三ヶ尻古墳群は、56基の円墳と二子山古墳・運派塚の2基の前方後円墳等があり、昭和53～55年に新幹線建設とそれに伴うセメント工場の貨物引込線拡張に伴い発掘調査が行われ、22基の円墳が発見され調査されている。古墳跡が多かったが、埴輪を持つものとそうでないものがあり、石室は河原石を利用した横穴式石室である。その中でやねや塚古墳は、保存状態がよく円筒埴輪列が一周しており円筒埴輪のほかに、人物・馬・太刀・家形埴輪などがあり、石室の中からは頭椎大刀・鉄鏃・刀子・耳環・銅釧などが出土している。

村岡古墳群は、4基の円墳があり、瀬戸山古墳群は32基の円墳と1基の前方後円墳（伊勢山古墳）が確認されている。伊勢山古墳は、昭和36年に調査され、石室は片袖式の横穴式石室で直刀・刀子・鉄鏃・鉄製轡・金環等が出土している。昭和52年には楊井薬師寺古墳が2基調査され、1号墳の埋葬施設は凝灰質砂岩の胴張り形の横穴式石室で、3号墳は直線胴の横穴式石室であること確認されている。



第3図 石原古墳群第2号墳位置図（数字は県遺跡地名表番号）

III 遺跡の概要

1 調査の方法

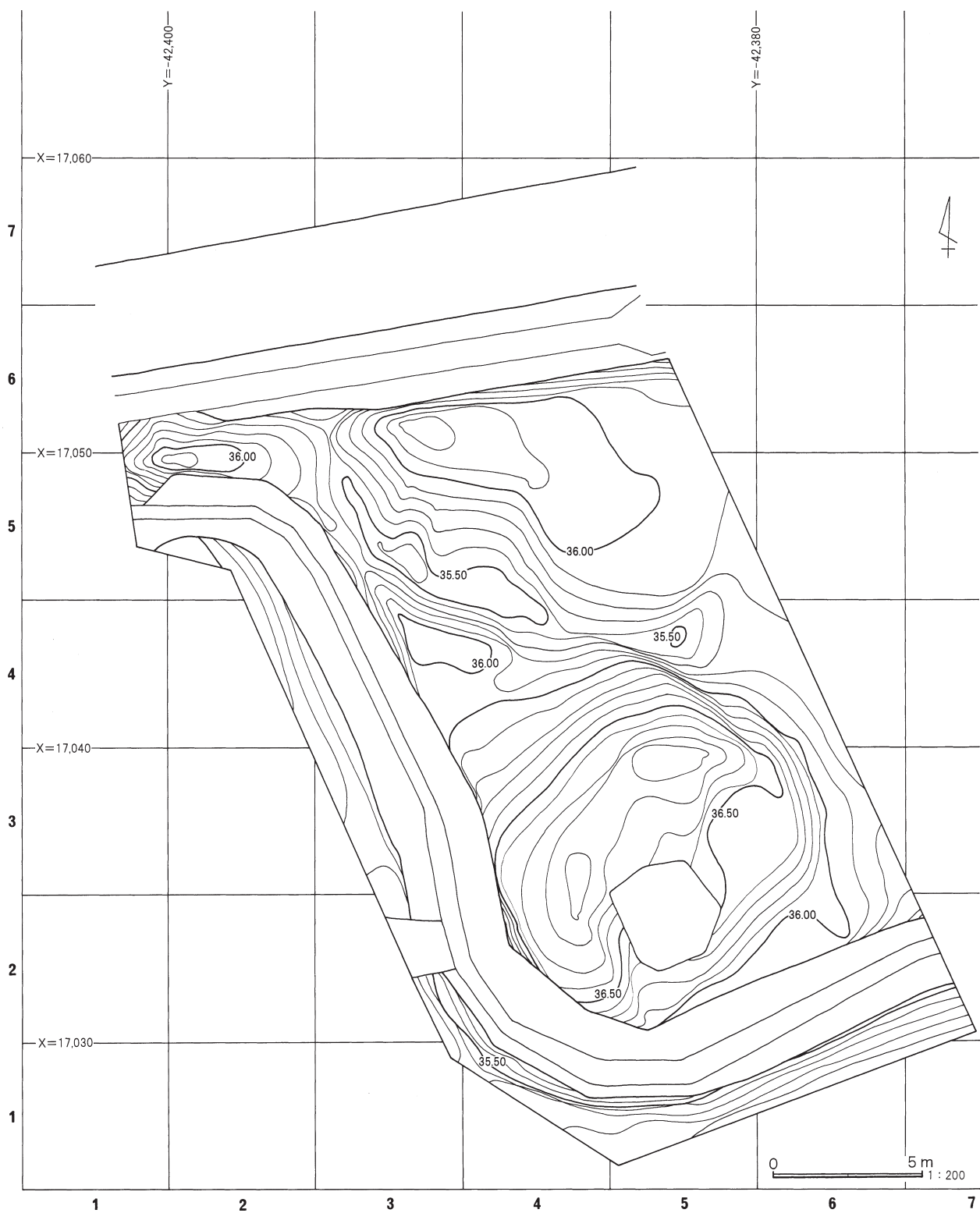
発掘調査の方法は、調査区内に国家座標に合わせた5mグリッドを設定した。グリッドは、調査区南西隅を1-1グリッドとして、東西方向は西から東へ1・2…とし、南北方向は南から北へ1・2…と呼称した。

発掘調査は、まず、北側の周溝を確認するため、人力によりトレンチ調査（3・4トレンチ）を行い、周溝の位置を確認し、重機により表土剥ぎを行った。その後、上記のグリッド設定を行った。そして、周溝を人力で掘下げ、墳丘も人力で掘下げると葺石状の河原石が墳丘の北西部と北側部分に検出された。その石の性格及び墳丘の構築状況を観察するため、1トレンチと2トレンチの調査を行い、断面観察をすると、墳丘の北西側と東側が大きな攪乱を受けていることが確認できた。西側と南側の周溝を確認するため5・6・7トレンチ調査を行い、5トレンチで西側の立ち上がりが確認できた。周溝・墳丘・石室を掘下げながら遺物の写真撮影・実測を行い、遺構の写真撮影・実測も行った。実測は、5mグリッドの杭を基準として1m間隔のメッシュを張り、簡易遣り方による方法で実施した。完掘後、調査区全体の航空写真撮影を行い、現場での調査を終了した。

2 検出された遺構と遺物

検出された遺構は、古墳1基であるが、周溝は北側の一部のみ調査できた。西から南側は現在使用している水路があり、古墳の周溝を利用したものと考えられ、トレンチ調査で範囲を確認したのみであった。大きな木の切り株が調査区内にあり、北側周溝の西側にも切り株があり、その部分の周溝は確認できなかった。主体部は、ほぼ全形を確認することができたが、盗掘を受けていて、天井石は残存しておらず、側壁はほとんど壊されている状態であった。

出土遺物は、墳丘部から少量の埴輪片が検出され、石室内から鉄鏃・刀子・火打鉄・耳環が出土した。埴輪は、円筒埴輪・形象埴輪であった。



第 4 図 石原古墳群第 2 号墳地形測量図

IV 遺構と遺物

1 墳丘と周溝（第4～7図）

墳丘は、西側も東側も攪乱を受けていたが、円形を呈すると考えられ、主軸方向で直径は約12.5mであった。墳丘盛土は、中心部において、灰黄褐色土、黒褐色土、にぶい黄色土、黒褐色土、褐灰色土、にぶい黄色土、灰黄褐色土の順に積まれていて、硬くしまりがよい状態であった。墳丘の高さは、1.04mであった。

葺石は、前庭部の西側にわずかに残存していただけであった。

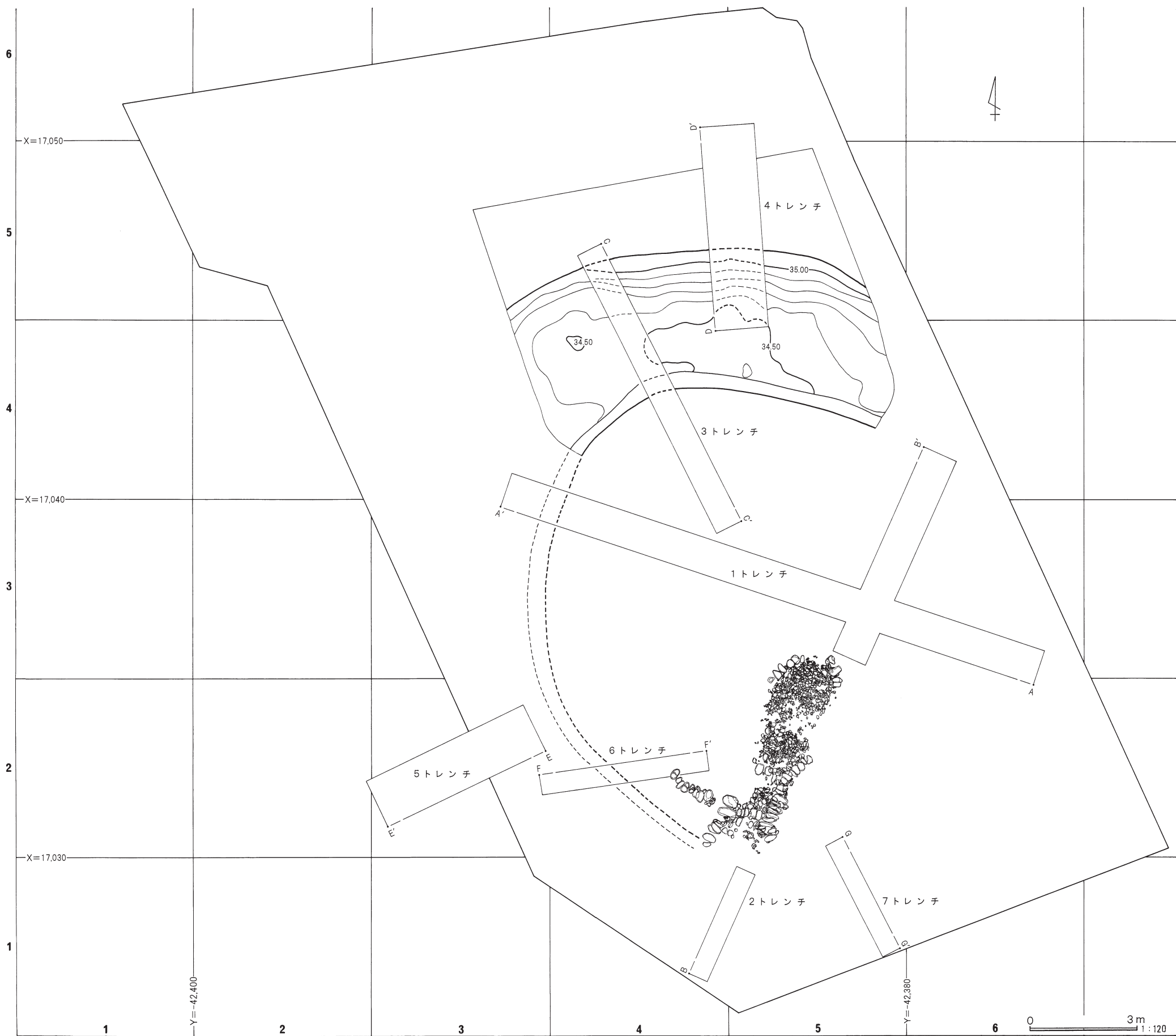
周溝は北側の一部のみ調査できた。調査区の西から南側は現在使用している水路があり、古墳の周溝を利用したものと考えられ、トレンチ調査で範囲を確認したのみであった。北側の周溝は、幅約4m、深さ約1mを測り、内側は急に立ち上がり、外側は緩やかに立ち上がっていた。周溝の覆土は、北側の周溝部で上から灰色土、黒褐色土、にぶい黄褐色土、黒褐色土の順に堆積していた。

2 主体部（第5・6・8・9図）

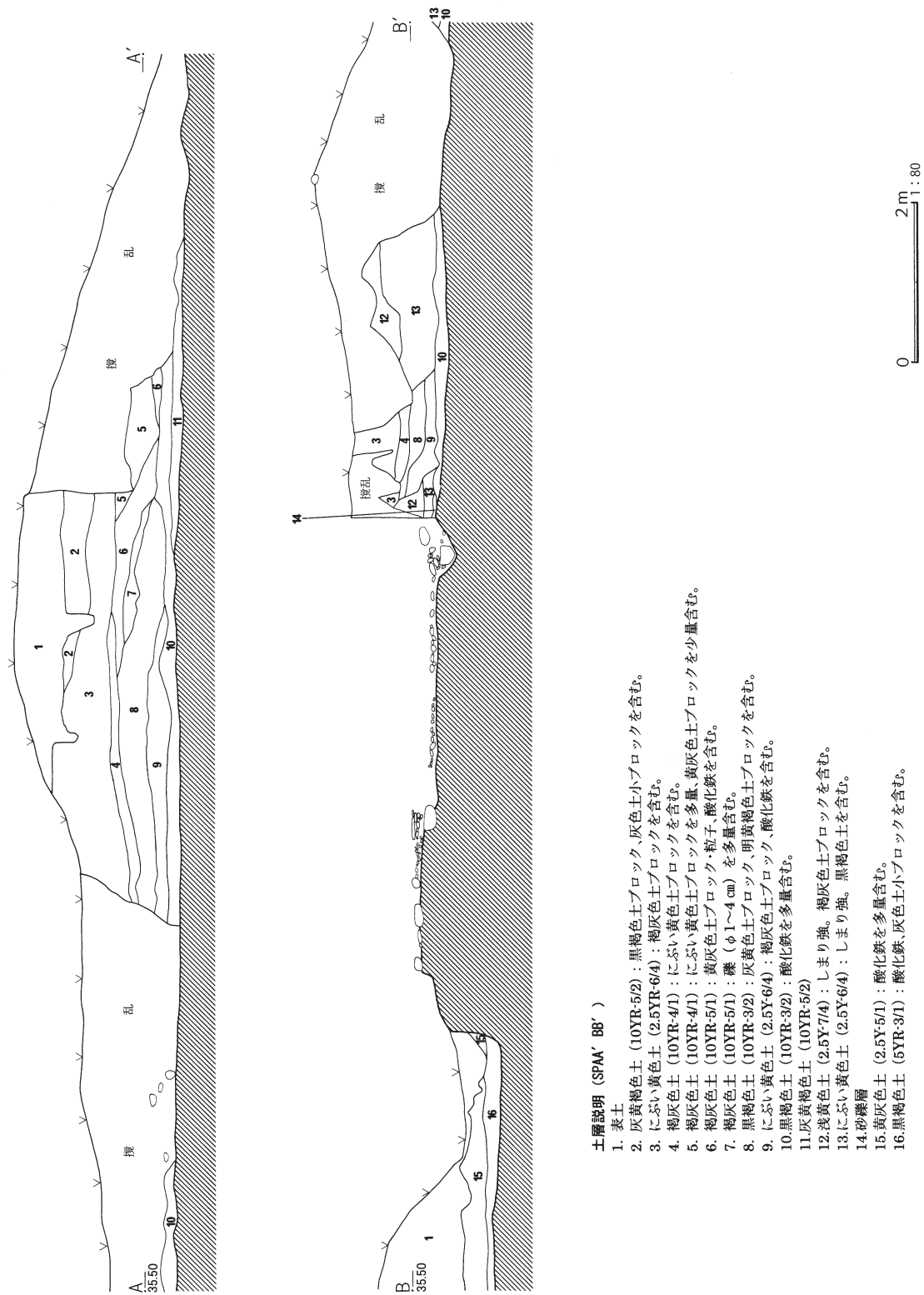
主体部は、河原石を使用した胴張り形の横穴式石室であるが、盗掘を受けており、残存状態はかろうじて石室の全体がわかる程度であった。

石室の主軸はN-19.5°-Eで、南側に開口している。石室の規模は、全長約6.2m、玄室の長さ3.3m、幅はA-A断面部で1.7m、羨道部は長さ1.56m、羨門部の幅は0.75mである。羨道部と玄室の長さの比率はほぼ1：2の割合である。平面形態は玄室が馬蹄形を呈し、奥壁から弧を描きながらほぼ中央で最大幅となり、玄門部に向かって直線的に狭まっている。羨道部は直線的に羨門部に向かい、前庭部はハの字に開いている。奥壁と側壁は河原石による小口積みであり、羨道部と玄門付近で0.8mの高さで残存していた。

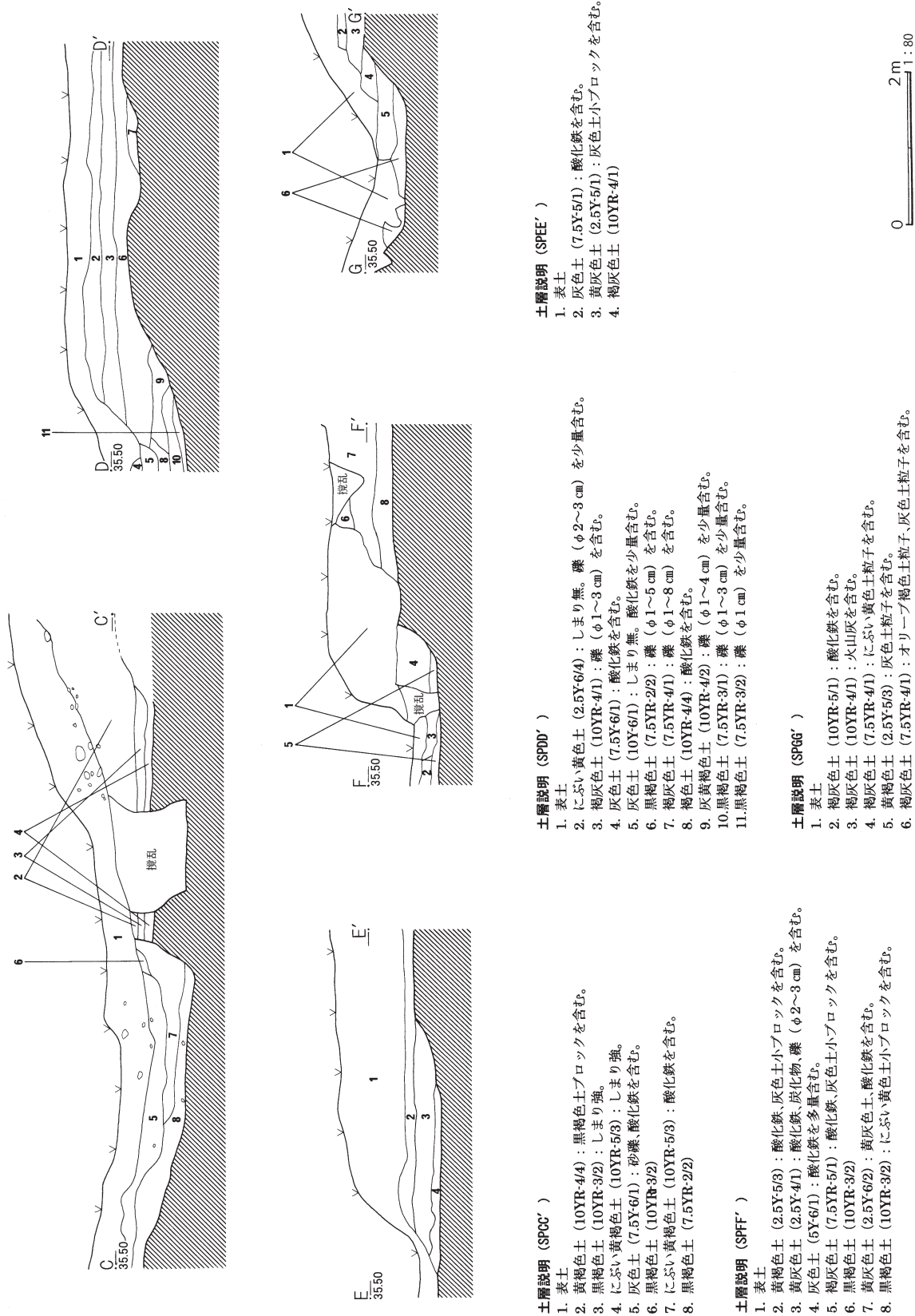
根石は、残存部分において玄室で2段、奥壁付近で3段、羨道部で1段であった。長径約30cm、厚さ5～8cmの扁平なものが据えられていた。玄門部と羨門部では、梱石として長径30cm、厚さ15～20cmの河原石が長軸を南北にして据えられていた。床面には、直径約5～10cmの河原石が敷き詰められていた。閉塞施設は、羨道部に梱石とほぼ同じ大きさの河原石や拳大の河原石や砂利が充填されていた。

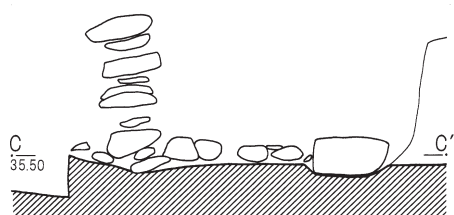
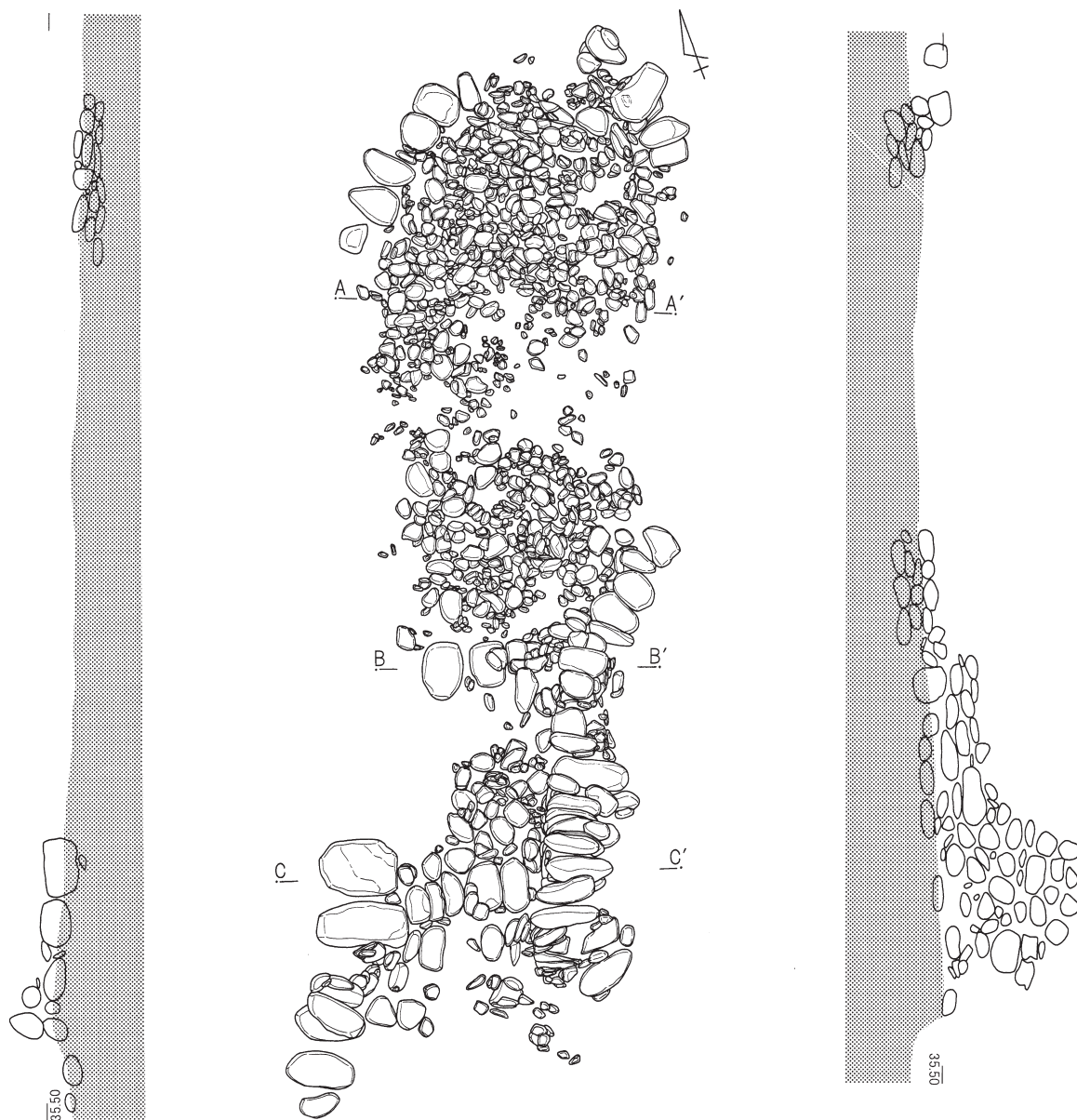


第5図 石原古墳群第2号墳全測図

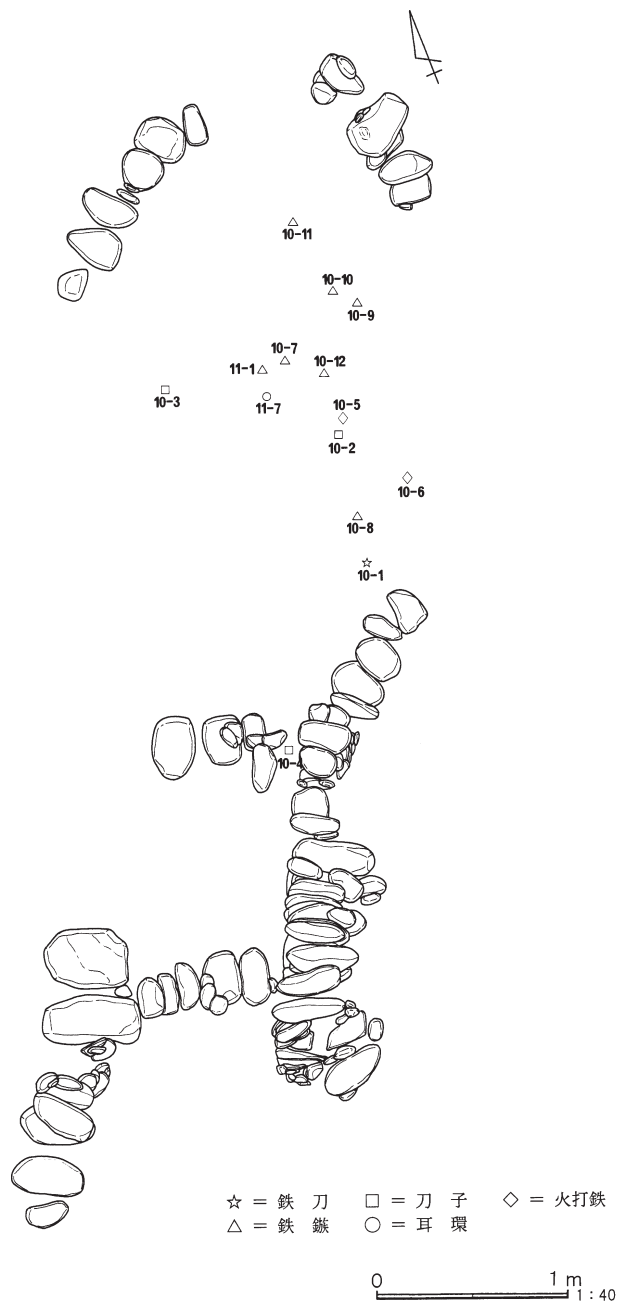


第6図 土層断面図(1)





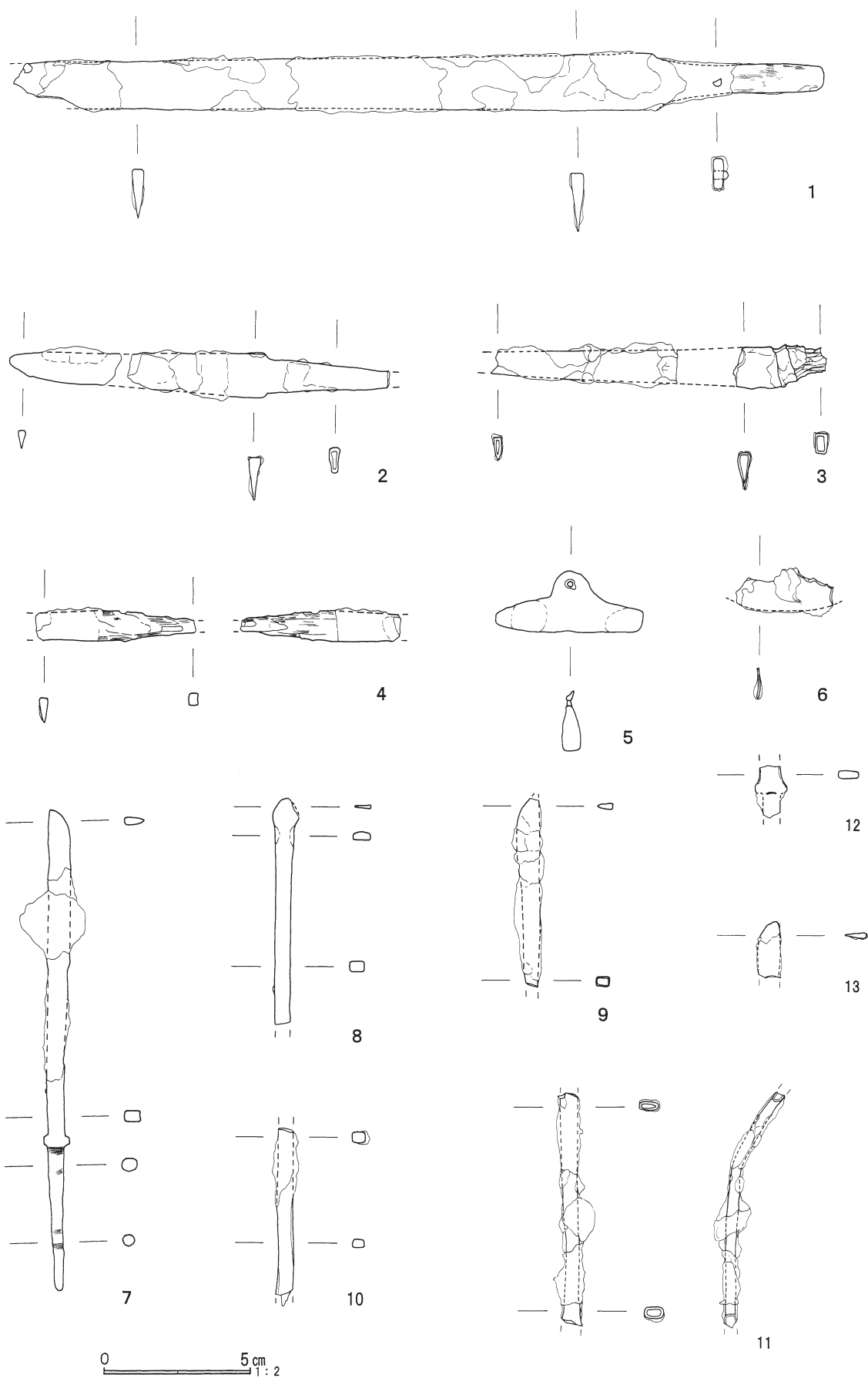
第8图 石室实测图



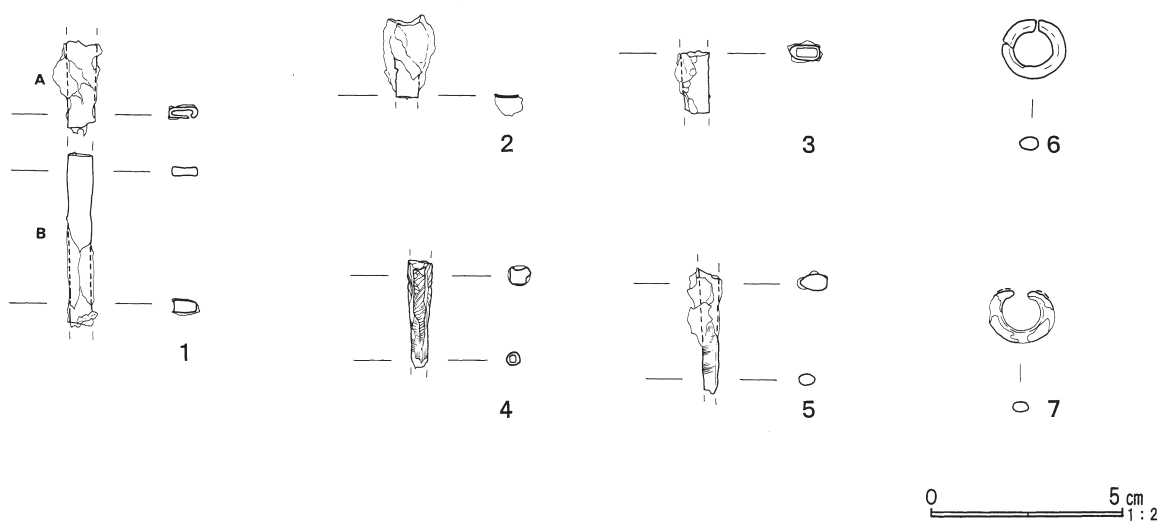
第 9 図 石室遺物出土状況図

3 出土遺物 (第 9～12 図・第 1・2 表)

墳丘部から、円筒埴輪片・形象埴輪片が出土し、石室内からは、鉄刀・刀子・火打鉄・鉄鍬・耳環が出土した。鉄刀は玄室の東側、刀子は玄室の中央部と玄室・羨道部の竊石の部分、火打鉄は玄室中央部の東側、鉄鍬は玄室の東側で、耳環は玄室の中央部からそれぞれ出土した。



第10図 石室出土遺物(1)



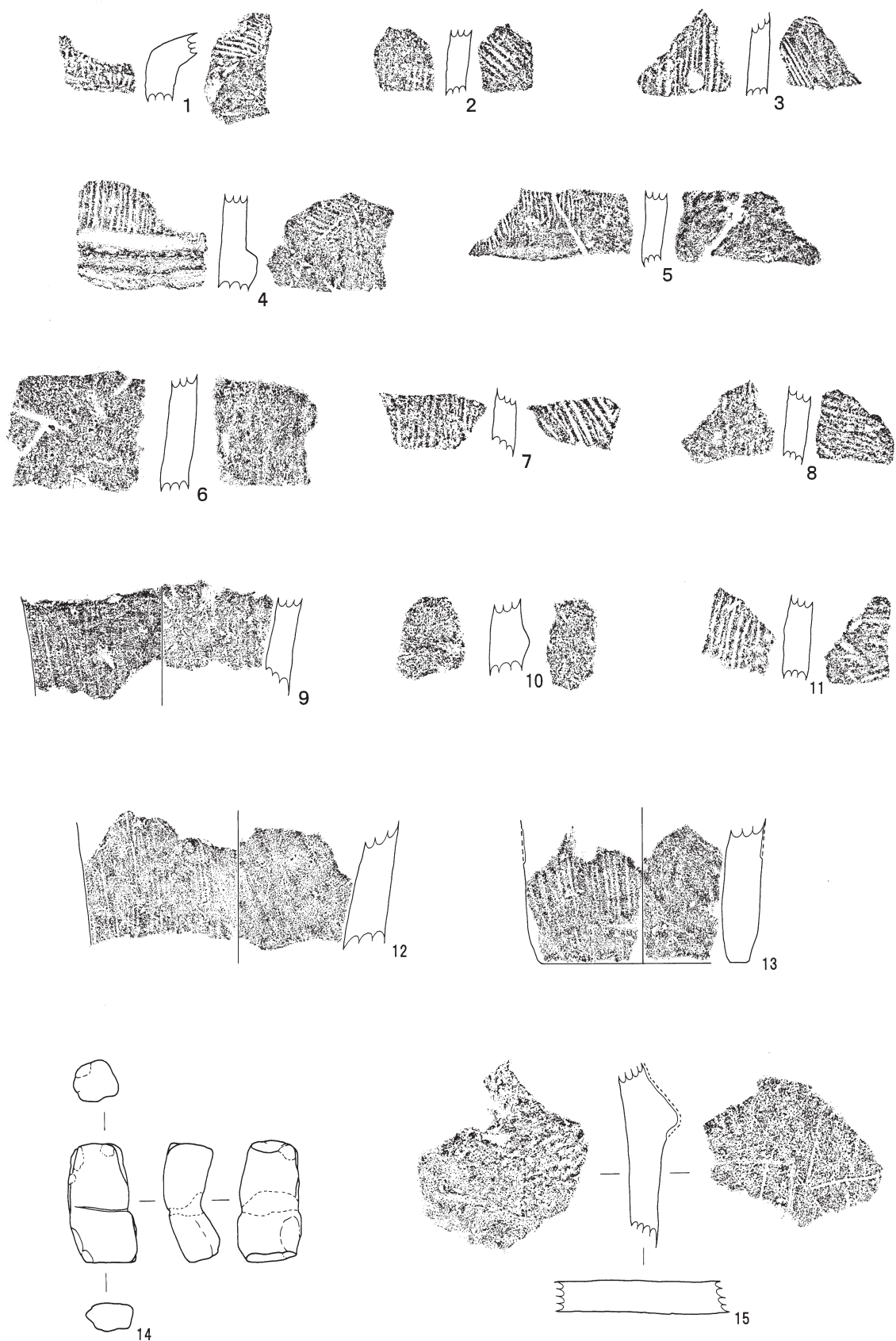
第11図 石室出土遺物(2)



発掘調査風景

第 1 表 石室出土遺物観察表

挿図番号	種 別	法 量 ・ 重 量 ・ 残存状態 ・ 出土位置 ・ 備 考
10-1	鉄 刀	最大長(27.7)cm、最大幅1.9cm、最大厚0.4cm。重量(76.5)kg。切先欠。石室玄室出土。
10-2	刀 子	最大長(13.1)cm、最大幅1.5cm、最大厚0.4cm。重量(16.4)g。茎部欠。石室玄室出土。
10-3	刀 子	最大長(11.3)cm、最大幅1.4cm、最大厚0.5cm。重量(10.9)g。切先・茎部大半欠。石室玄室出土。
10-4	刀 子	最大長(6.4)cm、最大幅1.1cm、最大厚0.5cm。重量(4.4)cm。切先・茎部大半欠。石室玄門部出土。
10-5	火 打 鉄	最大長2.1cm、最大幅5.1cm、最大厚0.5cm。重量9.1g。完形。石室玄室出土。
10-6	火 打 鉄	最大長(1.35)cm、最大幅(3.4)cm、最大厚0.1cm。重量(3.0)g。上部・両端欠。石室玄室出土。
10-7	鉄 鏃	最大長16.5cm、最大幅0.8cm、最大厚0.4cm。重量11.1g。完形。石室玄室出土。
10-8	鉄 鏃	最大長(7.75)cm、最大幅(0.9)cm、最大厚0.4cm。重量(7.4)g。鏃身～箆被部のみ残。石室玄室出土。
10-9	鉄 鏃	最大長(6.4)cm、最大幅(0.8)cm、最大厚0.4cm。重量(5.2)g。鏃身～箆被部のみ残。石室玄室出土。
10-10	鉄 鏃	最大長(5.7)cm、最大幅(0.5)cm、最大厚0.4cm。重量(5.3)g。箆被部のみ残。石室玄室出土。
10-11	鉄 鏃	最大長(7.5)cm、最大幅(0.7)cm、最大厚0.4cm。重量(7.0)g。箆被部のみ残。石室玄室出土。
10-12	鉄 鏃	最大長(1.8)cm、最大幅(1.1)cm、最大厚(0.3)cm。重量(1.1)g。箆被下部～茎上部のみ残。石室玄室出土。
10-13	鉄 鏃	最大長(1.9)cm、最大幅(0.8)cm、最大厚(0.2)cm。重量(1.1)g。箆被部のみ残。石室出土。
11-1	鉄 鏃	A：最大長(2.4)cm、最大幅(0.8)cm、最大厚(0.3)cm。B：最大長(4.55)cm、最大幅(0.7)cm、最大厚(0.4)cm。重量A+B=(5.4)g。箆被部のみ残。石室玄室出土。
11-2	鉄 鏃	最大長(1.9)cm、最大幅(0.6)cm、最大厚(0.4)cm。重量(2.8)g。箆被部のみ残。石室出土。
11-3	鉄 鏃	最大長(1.6)cm、最大幅(0.9)cm、最大厚(0.5)cm。重量(1.3)g。箆被部のみ残。石室出土。
11-4	鉄 鏃	最大長(2.8)cm、最大幅(0.6)cm、最大厚(0.5)cm。重量(1.7)g。茎部のみ残。石室出土。
11-5	鉄 鏃	最大長(3.2)cm、最大幅(0.9)cm、最大厚(0.5)cm。重量(1.8)g。茎部のみ残。石室出土。
11-6	耳 環	長径1.6cm、短径1.0cm、断面径0.3～0.5cm。重量2.1g。完形。石室出土。
11-7	耳 環	長径1.8cm、短径1.4cm、断面径0.25～0.4cm。重量2.0g。一部欠。石室玄室出土。



0 10 cm
1:3

第12図 墳丘出土埴輪

第 2 表 埴輪観察表

挿図番号	種 別	手法、形態の特徴等	胎 土	焼成	色 調	備 考
12-1	円筒埴輪	外面：縦ハケ 内面：斜ハケ及びナデ	白色粒子 黒色粒子 赤褐色粒子	普通	橙色	
12-2	円筒埴輪	外面：縦ハケ 内面：斜ハケ	白色粒子 黒色粒子 褐色粒子	普通	明赤褐色	
12-3	円筒埴輪	外面：縦ハケ 内面：斜ハケ及びナデ	白色粒子 黒色粒子 褐色粒子 赤褐色粒子 白雲母 礫	普通	明赤褐色	
12-4	円筒埴輪	外面：縦ハケ 内面：斜ハケ及び指ナデ 突帯：扁平な台形	白色粒子 黒色粒子 褐色粒子 赤褐色粒子 白雲母	普通	明赤褐色	
12-5	円筒埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ	白色粒子 黒色粒子 赤色粒子 赤褐色粒子	普通	橙色	
12-6	円筒埴輪	外面：表面剥離していて不明 内面：指ナデ	白色粒子 黒色粒子 赤褐色粒子 石英 礫	普通	外：明赤褐色 内：赤褐色	
12-7	円筒埴輪	外面：縦ハケ 内面：斜ハケ	白色粒子 黒色粒子 赤色粒子	普通	明赤褐色	
12-8	円筒埴輪	外面：指ナデ 内面：横ハケ	白色粒子 黒色粒子 赤色粒子 褐色粒子 白雲母	普通	明赤褐色	
12-9	円筒埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ	白色粒子 黒色粒子 褐色粒子 赤褐色粒子 白雲母 黒雲母 礫	普通	外：橙色 内：明赤褐色	
12-10	円筒埴輪	外面： 内面：ナデ 突帯：扁平な三角形	白色粒子 黒色粒子 褐色粒子	普通	橙色	
12-11	円筒埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ	白色粒子 黒色粒子 赤褐色粒子 石英 白雲母	普通	明赤褐色	
12-12	円筒埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ	白色粒子 黒色粒子 褐色粒子 白雲母 礫	普通	橙色	
12-13	円筒埴輪	外面：縦ハケ 基部外面：篋ケズリ 内面：指ナデ	白色粒子 黒色粒子 赤色粒子 褐色粒子 石英	普通	橙色	
12-14	形象埴輪	外面：指ナデ 内面：指ナデ	白色粒子 黒色粒子 赤色粒子 白雲母 黒雲母	普通	明赤褐色	
12-15	形象埴輪	外面：指ナデ 内面：篋ナデ	白色粒子 黒色粒子 褐色粒子 赤褐色粒子 白雲母 角閃石 礫	良好	明赤褐色	

V 調査のまとめ

今回の調査によって、石原古墳群第2号墳の墳丘、石室と周溝の一部が調査された。墳丘部の直径が約12.5mの円墳と考えられ、周溝の幅が約4m、深さ1mであった。石室は胴張りの横穴式石室で全長約6.2m、玄室の幅1.7m、羨門部幅0.75mであった。石室から鉄刀・刀子・火打鉄・鉄鏃・耳環が出土し、墳丘部から埴輪片が確認され、それらは円筒埴輪・形象埴輪であった。

石原古墳群は、現在15基の古墳が確認されている。円墳14基、前方後円墳1基から構成されている。その中で発掘調査され、内容がわかるものは、薬師堂古墳、石原古墳群第6号墳（旧名称：天神前遺跡1号古墳）、石原古墳群第7号墳、石原古墳群第8号墳である。

薬師堂古墳（第3図中の25-13）は、昭和47年に調査され、直径24mの円墳で、埋葬施設は胴張りの横穴式石室であった。石室から、銅釧・耳環・直刀・刀子・鉄鏃・切小玉などが出土し、墳丘には埴輪が樹立されていた。

石原古墳群第6号墳（第3図中の25-6）は、平成2年に調査されたが、墳丘が削平されていて、胴張りの横穴式石室の一部と周溝の一部が確認されただけであった。石室から耳環、刀子が出土し、周溝等からは埴輪片が多数出土した。埴輪片は、円筒埴輪・形象埴輪（家・馬・人物・靱・大刀など）であった。

石原古墳群第7号墳（第3図中の25-7）は、平成9年に調査されたが、調査区が狭く、周溝の一部のみ検出され、少量の埴輪片が出土しただけであった。しかし、表土剥ぎの際に確認された埴輪片の中に大刀形埴輪片があった。

石原古墳群第8号墳（第3図中の25-8）は、平成13年に調査されたが、調査区が道路部分であり幅が狭く、周溝の一部が確認されただけであった。周溝から墳丘の大きさを復元すると直径約18mの円墳と考えられ、周溝の幅が約4m、深さ46～58cmであった。墳丘部と周溝から埴輪片が確認され、それらは円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪（馬、人物、家等）であった。

今回の調査は、薬師堂古墳の発掘以来の全面的な調査であったが、墳丘上部の北側は後世に多量の河原石が埋められた状況で攪乱を受けていて、石室の上部及び東側には大きな穴が掘られていて攪乱を受けていた。大木が墳丘上にあり、石室の前提部や周溝の北西部や北東部にもあり調査が十分にできない状況であった。そのため、石室も攪乱がひどく遺物が少ないと思われたが、鉄刀や刀子、鉄鏃、耳環、そして、古墳の石室からの発見例が少ないと思われる火打鉄なども検出され貴重な資料が得られたと考える。

写 真 图 版



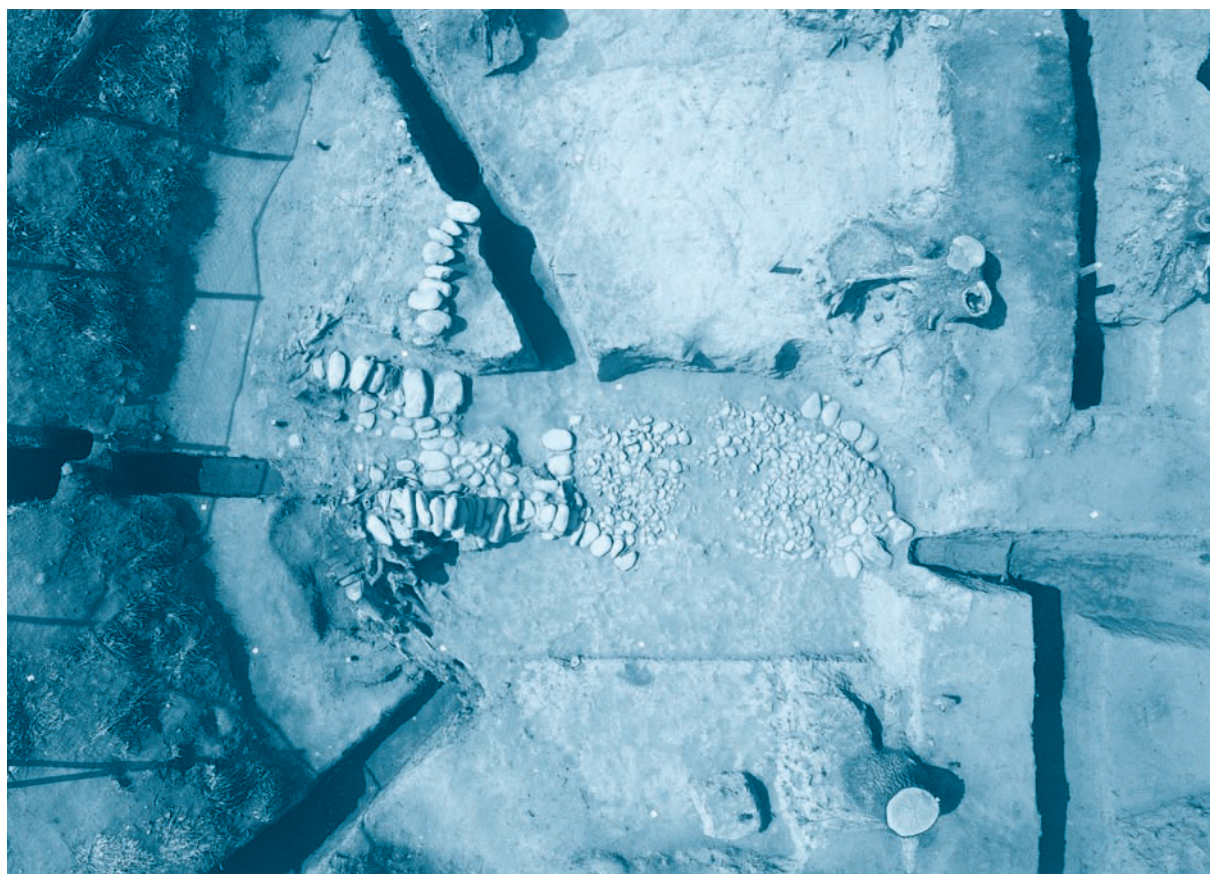
1 調査前全景（南から）



2 調査前全景（北から）



1 航空写真



2 石室



1 石室（閉塞石）



2 石室



1 石室（羨道部）



2 石室（玄室）



1 石室



2 墓石



1 周溝



2 周溝



1 墳丘上の河原石



2 石室遺物出土状況（第10図1）



1 石室遺物出土状況（第10図2）



2 石室遺物出土状況（第10図7）



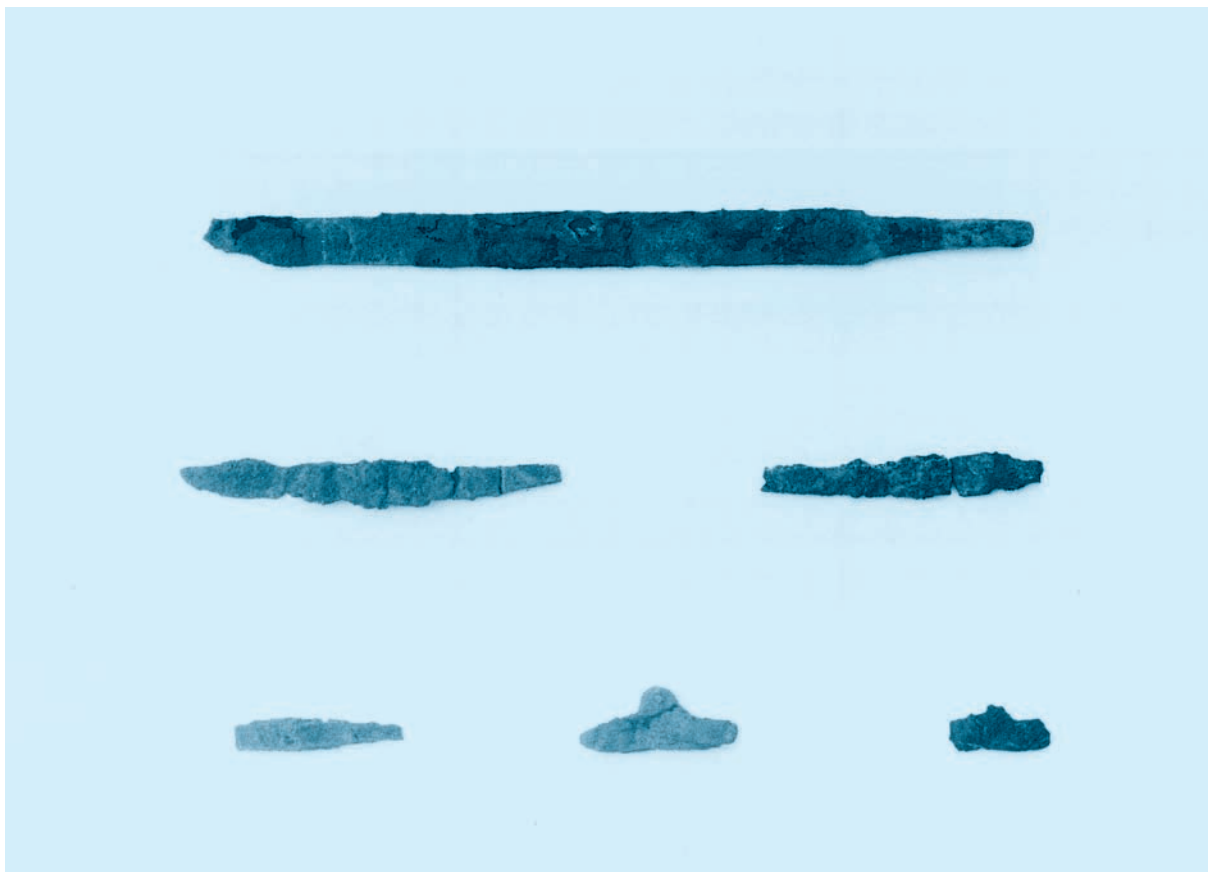
1 石室遺物出土状況（第10図9）



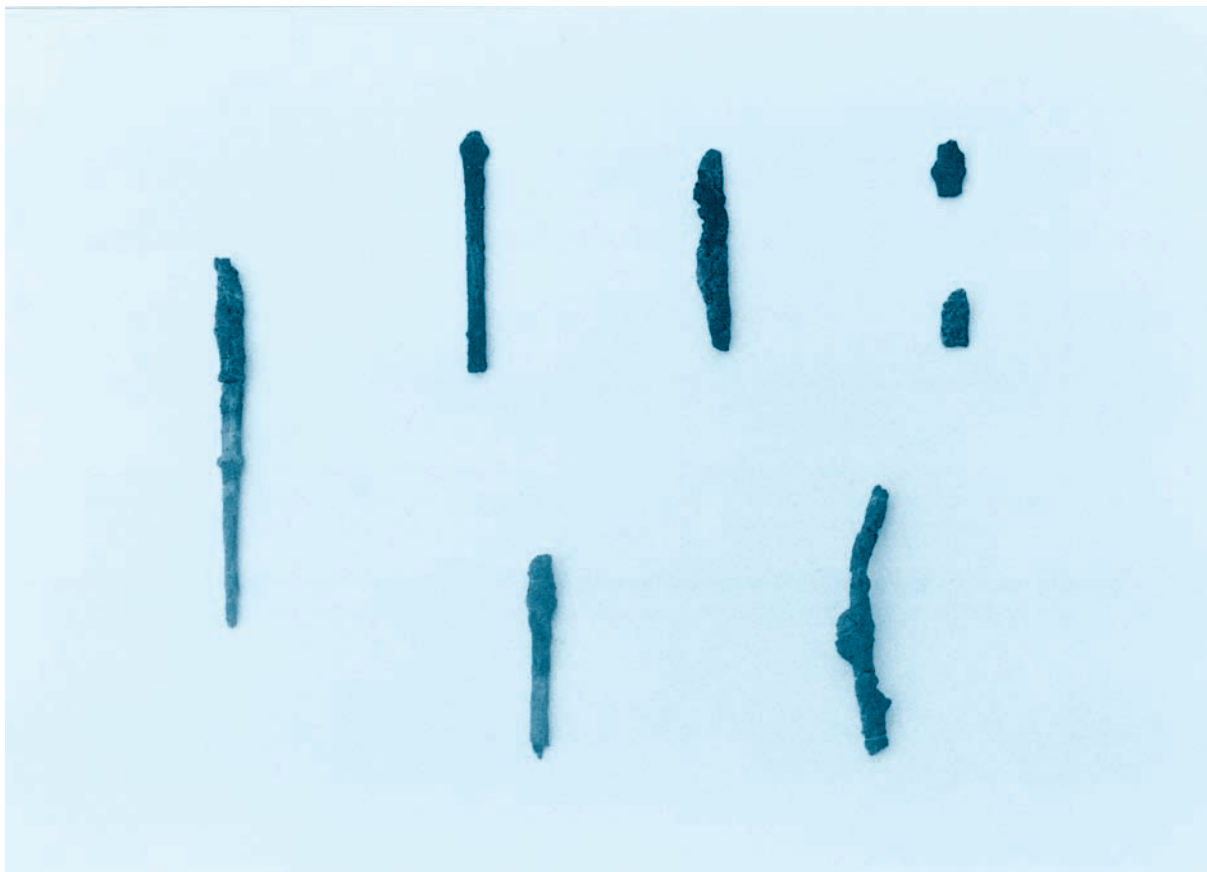
2 石室遺物出土状況（第10図10）



1 石室遺物出土状況（第11図7）



2 石室出土遺物（第10図1～6）



1 石室出土遺物（第10図7～13）



2 石室出土遺物（第11図）



1 墳丘出土埴輪 (第12図1～8)



2 墳丘出土埴輪 (第12図9～15)

報 告 書 抄 録

ふ り が な		いしはらこふんぐんだいにごうふん						
書 名		石原古墳群第 2 号墳						
副 書 名		熊谷市石原古墳群調査会埋蔵文化財調査報告書						
編 著 者 名		金子正之						
編 集 機 関		埼玉県熊谷市石原古墳群調査会						
所 在 地		〒360-0107 埼玉県熊谷市千代329番地 熊谷市立江南文化財センター TEL048-536-5062						
発 行 年 月 日		西暦2008（平成20）年 3 月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北 緯 (° ' ")	東 経 (° ' ")	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしはら こふんぐん 石原古墳群 だいに ごうふん 第 2 号墳	さいたまけんくまがやし いしはら 埼玉県熊谷市石原 あぎやしき 字屋敷1,312番地他	11202	025	36°09'09"	139°21'44"	20070122 ～20070329	296	建売住宅 建設工事
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代		主 な 遺 構		主 な 遺 物		特記事項
石原古墳群 第 2 号墳	古墳	古墳時代		墳丘、石室、周溝		埴輪片、鉄刀、刀子、 鉄鏃、火打鉄、耳環		

熊谷市石原古墳群調査会埋蔵文化財調査報告書

石原古墳群第 2 号墳

平成20年 3 月31日発行

発 行／埼玉県熊谷市石原古墳群調査会

印 刷／朝日印刷工業株式会社



さくらのまち“熊谷”